

IV-1-3 関東

延べ宿泊者数は微増、地域差が鮮明に
外国人延べ宿泊者数は大幅増加、山梨県の伸びが顕著

(1) 都道府県レベルの旅行者動向

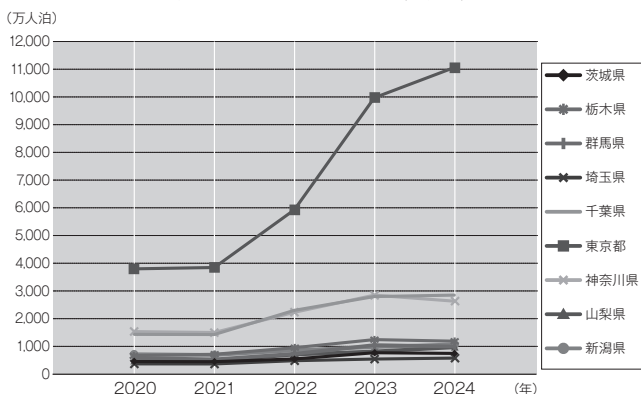
観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、2024年1月から12月までの関東地方1都8県の延べ宿泊者数は21,901万人泊で、増加（前年比5.1%増）となった（図IV-1-3-1）。

都県別に見ると、北関東の茨城県（前年比3.2%減）、栃木県（同4.7%減）、群馬県（同4.9%減）及び、神奈川県（同7.7%減）が前年を下回った一方で、山梨県（同19.1%増）と東京都（同11.0%増）は前年を大きく上回る等、地域によって明暗が分かれた。

外国人延べ宿泊者数については、1都8県全体では前年比32.3%増の7,013万人泊と大幅な増加となった（図IV-1-3-2）。

都県別に見ると、すべての都県で2桁以上の増加となった。特に山梨県（同79.5%増）の増加が目立った。

図IV-1-3-1 延べ宿泊者数の推移（関東）

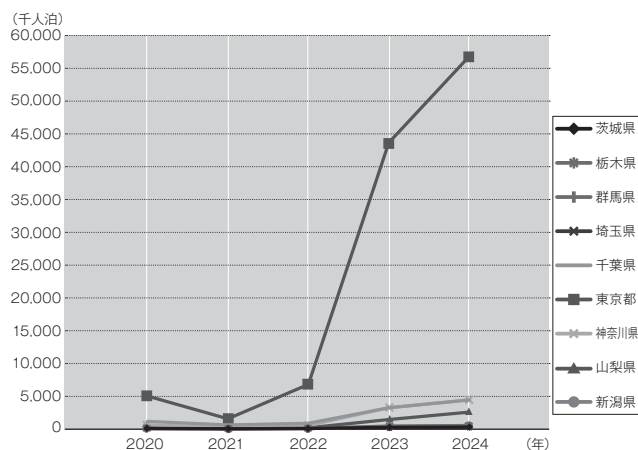


（単位：万人泊）

都道府県名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
茨城県	434	429	527	751	727
栃木県	648	695	932	1,225	1,168
群馬県	563	510	710	1,026	975
埼玉県	349	347	464	524	558
千葉県	1,413	1,408	2,280	2,777	2,829
東京都	3,776	3,824	5,904	9,945	11,035
神奈川県	1,513	1,481	2,209	2,827	2,610
山梨県	436	461	687	797	948
新潟県	697	672	840	959	1,052

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

図IV-1-3-2 外国人延べ宿泊者数の推移（関東）



（単位：千人泊）

都道府県名	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
茨城県	53	25	55	238	278
栃木県	63	25	65	435	481
群馬県	70	17	47	317	432
埼玉県	40	26	57	170	228
千葉県	1,142	598	852	3,219	4,408
東京都	5,003	1,536	6,776	43,638	56,804
神奈川県	595	244	509	3,226	4,420
山梨県	357	25	167	1,423	2,555
新潟県	255	31	87	345	529

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

(2) 観光地の主な動向

① 地方・都道府県レベル

●「リトリートの聖地・GUNMA」実現に向けた中期的観光振興計画、群馬県が2024年度～2027年度の観光振興計画を策定

群馬県は、2024年度から2027年度までの4年を対象とした観光振興計画を策定した。基本理念として「群馬を世界に誇るリトリートの聖地へ」を掲げ、心と体を癒す滞在型観光の推進を軸に、長期滞在や高付加価値化、旅行需要の平準化を目指す。計画では、宿泊者数や旅行消費額、外国人旅行者数、リトリート認知度等、具体的なKPIを設定。観光基盤の整備、温泉や自然・食文化を活かしたコンテンツ創出、データに基づく戦略的プロモーションの3つを基本戦略とし、持続可能な観光地域づくりを進める。

●第3期「彩の国DMO戦略」を策定（埼玉県）

一般社団法人埼玉県物産観光協会は、2024年度からの3年を対象とした第3期「彩の国DMO戦略」を策定した。地域の「ヒト・モノ・コト」を掘り起こし、新たな価値を創造する地域商社として、物産と観光の両面から県内経済の活性化を図ることを目的とする。基本理念として「稼ぐ力を引き出す地

域商社として、地域の魅力を発掘・開発し、持続可能な経済活動を推進する」を掲げた。戦略では、観光資源の選択と集中による磨き上げ、地域資源の物語化による魅力向上、主要顧客層に焦点を当てた発信強化を柱としている。これらを実現するため、デジタルマーケティングの強化やコンテンツの高付加価値化、県産品の販売力向上等の施策を進める。戦略の策定にあたっては、2023年度に新設された「彩の国DMO協議会」において、観光・物産関係者や地元企業、観光団体、自治体、運輸業者等、多様な関係者による4回の協議を経て、具体的な方針が取りまとめられた。

●「PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン2024-2026」を策定

東京都はコロナ禍後の急速な訪日外国人旅行者数の回復を踏まえて、観光都市としての国際競争力を強化することを目指して「PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン2024-2026」を策定した。

同プランでは「復活した観光需要の積極的な取り込み」、「観光における持続可能性の確保」、「観光産業の基盤の強化」の3つを基本方針として観光施策を展開することを定めた。具体的には「戦略1 東京の特色を活かす観光振興」として、「食」の魅力の強化、文化資源の活用促進、ナイトタイム観光の促進、多摩・島しょ地域の観光振興、新たな観光テーマの開拓のほか、より快適な観光を実現するための環境整備として、アクセシブル・ツーリズムの推進及び観光客への案内等、機能の向上を掲げた。

また、「戦略2 プロモーションの新たな展開」ではデジタルマーケティングや国内各地との連携促進、ビジネス交流の拡大等を挙げた。

「戦略3 持続可能な観光地域経営の推進」では事業者の経営力強化や観光まちづくり、サステナブル・ツーリズムの推進を掲げた。

●“弾丸登山”対策や安全・混雑緩和のため、富士吉田ルートに通行規制と予約システムを導入(山梨県)

山梨県は、富士山五合目登山口(吉田ルート)において、弾丸登山対策や、混雑緩和、安全性の確保を目的に、2024年7月1日から9月10日までの期間、通行規制を導入した。16時から翌3時は登下山道を閉鎖し、1日当たりの登山者上限を山小屋宿泊者を除き4,000人としたほか、ゲート通過時には通行料2,000円を徴収し、安全誘導や維持管理に充てる。この取り組みは、夜間登山の抑制と過密緩和を通じて、安全性の向上や持続可能な観光推進を図るものである。

あわせて、利便性向上と混雑緩和のため、2024年5月20日から登山者向け「通行予約システム」を導入した。登山前日23時59分まで予約可能で、代表者による一括決済や富士山保全協力金(任意1,000円)の事前支払いにも対応する。予約者は五合目でメールの二次元コードを提示してリストバンドを受け取り、そのまま通行できる仕組みとなっており、当日も空きがあれば現地受付が可能である。規制と予約システムの併用により、安全管理と登山者の利便性の両立を目指す。

②広域・市区町村レベル

●JR東日本が中央線快速・青梅線にグリーン車を導入、2025年春サービス開始

JR東日本は、首都圏近郊の普通列車における着席ニーズの高まりに応え、中央線快速及び青梅線にグリーン車サービスを新設した。2025年春のダイヤ改正(3月15日)より二階建てグリーン車2両を連結し、サービスを開始した。これに先立ち、2024年10月13日以降、12両編成にグリーン車を連結した列車の運行を順次開始し、「グリーン車お試し期間」としてグリーン料金なしで利用できる試乗機会を提供した。正式運行開始後は、Suicaグリーン券による乗車やJRE POINT活用によるポイント利用等に対応する便利な運賃仕組みを導入した。

また、これに関連してJR東日本は2024年度を“新しい未来とネットワークを拓く年”と位置付け、中央快速等へのグリーン車乗車環境の整備及び関連地上工事に向けた設備投資を推進した。

●星野リゾートが谷川岳の施設を「谷川岳ヨッホ」、「Mt.T」に一新、年間を通じて“山の魅力”にふれる拠点へ(群馬県)

星野リゾートは、群馬県みなかみ町にある「谷川岳ロープウェイ by 星野リゾート」と「谷川岳天神平スキー場 by 星野リゾート」の名称を、2024年12月1日よりそれぞれ「谷川岳ヨッホ by 星野リゾート」と「Mt.T (マウントティー) by 星野リゾート」に改名した。今回のリブランドは、“山のリブランド”を掲げ、四季折々の絶景や自然に出会える山としての魅力を再発信する取り組みである。

「谷川岳ヨッホ」は、「ヨッホ」がドイツ語で「鞍部」を意味する言葉であることに由来し、天神平が谷川岳中腹の鞍部である地理的特性を踏まえた命名である。施設では、四季折々の山岳景色を楽しめる展望台や、スニーカーで散策できる「虹さんぽロード」、展望台カフェでの食体験、電動アシスト自転車による一ノ倉沢までのサイクリング等、多様なアクティビティを提供している。

「Mt.T」は、谷川岳や天神平等、周辺の頭文字「T」を冠し、「究極のパウダーフィールド」を意味する名称である。豊富な積雪と急峻な地形を活かし、上質なパウダースノーを国内外のスキーヤー・スノーボーダーに提供することを目指している。安全対策としてビーコンチェッカーの設置や雪崩警戒情報の提供も行い、安心して楽しめる環境を整備している。

谷川岳は首都圏から約2時間とアクセスが良く、標高2,000メートル未満ながら日本百名山に数えられる険しい岩稜や稜線美を有し、「3,000メートル級を超える絶景」とも称される。リブランドを通じ、残雪や新緑、紅葉、極上のパウダースノーといった四季折々の魅力を発信し、年間を通じて訪れることができる山としてのポジションの確立が期待される。

また、「谷川岳ヨッホ」では、冬期には「雪舞うゴンドラクルーズランチ」として、特別仕様のゴンドラを1日1組限定で貸し切り、山頂でコース料理を楽しめるプレミアムな体験を提供しており、非日常的な山岳リゾート体験を提案している。

●千葉市がモバイル限定の周遊乗車券「チバノサト1日周遊きっぷ」を販売(千葉県)

千葉市は、千葉都市モノレールとコミュニティバスを対象にしたモバイル専用の周遊乗車券「チバノサト1日周遊きっぷ」を2025年2月3日にジョルダンのアプリ「乗換案内」内で販売開始した。土・日曜、祝日(年始・ゴールデンウィークを含む)限定で利用でき、千葉都市モノレールの有人駅4駅(千葉みなと駅、千葉駅、都賀駅、千城台駅)とコミュニティバス4ルート(さらしな、おまご、いずみ、おおみや)が乗り降り自由となる。また、千城台駅直結の商業施設「イコアス千城台」で利用可能な優待クーポンが付くのが特徴である。

同時に、コミュニティバスの4ルートのみを対象にした「さらしな・おまご・いずみ・おおみや1日乗車券」もモバイルで販売を開始した。中学生が「チバノサト1日周遊きっぷ」を購入すると大人運賃となるため1,100円となるが、モノレールとコミュニティバスを別々に利用することで880円に抑えることも可能である。

この取り組みは、スマートフォンひとつで乗車から買い物までできる利便性を提供するものであり、特に千葉市内を観光やレジャーで周遊する利用者にとって、効率的かつお得な移動手段として期待される。

●GOが東京23区等で日本型ライドシェアを開始、Uber Japanは浦安市でタクシー配車サービスを開始(東京都、千葉県)

2024年4月から、タクシー配車アプリ「GO」は、東京23区、武蔵野市、三鷹市において、「日本版ライドシェア」(自家用車活用事業)と呼ばれる仕組みとのマッチングを開始した。これは、タクシーが不足しがちな地域や時間帯に限り、タクシー事業者が管理・教育する一般ドライバーの自家用車を活用して有償送迎を可能にするものであり、利用者はリアルタイムのマッチングに加えて事前確定運賃の支払い、さらには従来のタクシー配車を希望する選択肢も保持できる利便性の高いサービスとなっている。安全性はドライバー評価や車両表示、通報機能等により確保している。

5月下旬以降には北海道、宮城県、埼玉県、千葉県、大阪府、兵庫県、広島県、福岡県の一部地域へ順次対応地域が拡大し、ライドシェアドライバーの登録数は累計1,200名を超え、稼働車両数の増加による利便性向上が進んでいる。

さらに、2024年8月28日にはUber Japanが千葉県浦安市で「Uber Taxi」の配車サービスを開始した。浦安市は東京ディズニーリゾートや多数のホテル・商業施設を擁し、特に舞浜駅や浦安駅周辺では外国人旅行者の増加等を背景にタクシー配車需要が高まっていたことから、このサービス開始により即時配車の利便性が強化された。県内では成田市に続く2か所目の提供地域である。

●東京都交通局が沿線セレクトショップ「とえいろ」を市ヶ谷駅に開業(東京都)

東京都交通局は、都営交通として初の沿線セレクトショップ「とえいろ」を、2024年5月15日に都営新宿線市ヶ谷駅構内に

オープンした。「とえいろ」では、都営地下鉄や都営バス、都電荒川線、日暮里・舎人ライナーの沿線にある店舗や企業が手掛ける食品・飲料・雑貨等を幅広く取りそろえ、さらに沿線企業と共同開発したオリジナル商品も販売することで、沿線地域の魅力発信や活性化に貢献する狙いである。店舗の営業時間は平日8～20時、土曜10～19時(日曜、祝日は休業)となっており、取り扱い商品にはクラシックバウムや伝統銘菓・おこし、江戸切子のグラス等がある。運営はTAMARIBAが担い、「とえいろ」という名称には、都営(とえい)交通と彩り(いろどり)を掛け合わせ、「沿線の魅力に彩りを添える場になりたい」という願いが込められている。

●沿線まるごとホテル、中核施設「Satologue(さとローグ)」を開業(東京都)

「沿線まるごとホテル」を展開している沿線まるごと(奥多摩町)は、JR 青梅線の古里駅と鳩ノ巣駅の間に中核拠点となる施設「Satologue」のレストランとサウナを2024年5月に、宿泊棟を2025年5月に開業した。

レストラン「時帰路(TOKIRO)」は改修した古民家を活用し、奥多摩や青梅由来の食材を使った「沿線ガストロノミー」を提供する。林業で栄えた奥多摩の記憶をつなげる薪サウナ「風木水(FUKISUI)」では、地元の薪を使用した薪サウナ、川から引き込んだ水を利用した水風呂、緑に囲まれた外気浴を楽しめる。

2025年1月には宿泊棟の予約受付を開始、5月に開業した。客室はシンプルでミニマムな造りで、杉や樺(さわら)等の木材を用い、漆喰の壁で仕上げている。奥多摩の自然を楽しめる場所としてテラスが設けられており、浴室からも出入りができるようになっている。

●横浜観光コンベンション・ビューローが「横浜市観光協会」に改称(神奈川県)

観光地域づくり法人(DMO)として活動を進めてきた公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューローは、2024年4月22日に「公益財団法人横浜市観光協会(Yokohama City Visitors Bureau)」へと名称を変更した。これはDMOとしての役割をわかりやすく伝えるための改称で、地域と一体となった観光まちづくり、ならびに観光・MICE都市としてのブランド強化を意図するものである。財団は、訪れる人々と地域住民が「上質」かつ「洗練」された新たな発見と出会いに感動できるような観光まちづくりを推進している。

●自動運転バスのレベル4実装に向けた取り組みと将来構想を発表(神奈川県)

川崎市は、自動運転バスのレベル4実装に向けた取り組みを強化している。2025年1月27日からは、ティアフォー社製最新型電動ミニバス「Minibus 2.0」を導入し、羽田連絡線はレベル2(一部区間手動併用)、川崎病院線はレベル0(完全手動)で実証運行を実施し、一般向けの試乗会も行った。2027年度のレベル4の実装を視野に、走行データや運行体制の確立に注力している。

さらに、2025年7月8日より、こうした自動運転バスの開発と普及に向けた市民理解の拡大を目的としたクラウドファンディングを開始した。寄付金は、高精度3D地図の作成、自動運転の仕組み学習等に活用される予定であり、支援者にはプロジェクトメンバーへの参加権等の特典も提供される。

●みなとみらい線と横浜市営地下鉄がタッチ決済乗車の実証を開始(神奈川県)

横浜高速鉄道は、みなとみらい線全駅において、クレジットカードやスマートフォンによるタッチ決済乗車の実証実験を2024年12月4日から開始した。対象となるのは、Visa、JCB、American Express、Diners Club、Discover、銀聯といった国際決済ブランド(Mastercardは2025年5月13日から対応)であり、カードやスマートフォンを改札機の専用リーダーにかざすことで、チャージ不要かつスムーズに乗降が可能となる。さらに東急電鉄のデジタルチケットサービス「Q SKIP」と連携することで、二次元コードによる改札通過にも対応し、両社路線をまたいだ移動の利便性向上を図るものである。

一方、横浜市交通局は、市営地下鉄全40駅において同様のクレジットカード等によるタッチ決済乗車の実証実験を2024年12月4日から2027年度末までの長期で実施する。こちらも対象はVisa、JCB、American Express、Diners Club、Discover、銀聯で、Mastercardも2025年5月13日から対応可能となった。

●「雁坂トンネルサイクルツアー in 山梨市」を開催(山梨県)

山梨市は県と共催で、やまなしスポーツエンジンが企画・運営する「雁坂トンネルサイクルツアー in 山梨市」を2024年8月18日に開催した。サイクリングにより、通常立ち入ることのできない雁坂トンネルの避難坑(非常通路)の走行を、ガイド付きで体験できる特別なイベントである。ツアーは初級と中級の2コースを用意し、初級コースは道の駅みとみから避難坑までの往復約12キロメートル、中級コースは雁坂大橋までの往復約17キロメートル(獲得標高約100メートル)で、小学4年生以上が対象。やまなしサイクルツアーガイドによる案内で、安全かつ魅力満載の体験が可能であった。

雁坂トンネルは、埼玉・山梨両県を結ぶ一般国道140号の有料山岳トンネルで、延長約6,625メートルと一般道路のトンネルとしては日本最長。物流時間の短縮や代替道路機能の提供等、地域の産業振興や災害時のインフラ安定等に貢献してきた。今回のツアーは、こうしたインフラの裏側にふれられる貴重な機会として、参加者だけでなく地域の魅力発信や観光振興にも寄与した。

●JR大糸線で自転車持ち込み可能な「サイクルトレイン」を運行(新潟県)

糸魚川市と大糸線活性化協議会は、JR大糸線糸魚川駅～南小谷駅間で、自転車を解体・袋詰めせずにそのまま列車内に持ち込める「サイクルトレイン」を運行した。運行日は2024年9月28日と10月19日の2日間で、糸魚川発着コースと南小谷発着コースを設定した。

利用者は日本海沿岸や北アルプス山麓の自然景観を楽しみながら、鉄道とサイクリングを組み合わせた周遊が可能となる。料金は往復大人1,360円、こども680円で、追加の手回り品料金は不要。糸魚川市のウェブサイトから事前予約制で行われた。

この取り組みは、輪行バッグ不要という手軽さと、大糸線沿線の観光資源を活かした新しい旅のスタイルとして注目されており、地域内外からの誘客促進やサイクリングツーリズムの推進に寄与した。

(相澤美穂子)